

(様式第4号)

上田市地域情報化推進委員会 会議概要

1 審議会名	上田市地域情報化推進委員会
2 日時	令和3年10月29日 午後2時00分から午後4時00分まで
3 会場	Web会議にて開催（事務局及び傍聴者：市役所本庁舎4階庁議室）
4 出席者	小林一樹会長、西入幸代副会長、小駒はるみ委員、萱津理佳委員、小山陽三委員、中村和己委員、長谷川はるみ委員、水野泰雄委員、山本幸恵委員 田上健二オブザーバー（総務省信越総合通信局情報通信振興室長）
5 市側出席者	大矢政策研究センター副センター長、児玉マネージャー、大林政策研究センター係長、沓掛政策研究センター主査、山口政策研究センター主査、柳原総務部長、堀内情報システム課長、市村情報システム課課長補佐、鈴木情報システム課係長、武井情報システム課主査、村山情報システム課主事
6 公開・非公開	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7 傍聴者	0人 記者 1人
8 会議概要作成年月日	令和3年11月4日

協 議 事 項 等

- 1 開会（堀内課長）
- 2 会長あいさつ
- 3 自己紹介
- 4 議事
  - (1) 「上田市スマートシティ化推進本部」の設置について
    - 事務局から説明
    - 以降、協議
    - (会長) 我々の参加している上田市地域情報化推進委員会は、説明資料1の図中には入っていないが、外側からアドバイスや計画について意見を出していくという位置付けでよいか。
    - (事務局) 本委員の組織は、資料1の図には入れていないが、計画等に意見いただいたものを参考にさせていただき、この体制で進めていくスタンスである。
    - (会長) 上田市スマートシティ化推進本部に対して、我々の委員会の意見を渡すことができるという考えでよいか。
    - (事務局) 上田市スマートシティ化推進本部に事務局から、委員の皆様から出た様々な意見を届けることができるという前提で考えてもらえればいい。
  - (2) 「上田市スマートシティ化推進計画」に係る個別施策ロードマップについて
  - (3) 個別施策の進捗状況について
    - 事務局から説明
    - 以降、協議
    - (会長) スマートシティ化の推進に関して令和3年度はどのくらいの予算規模なのか。
    - (事務局) 防災関係、ペーパーレス、Wi-Fiなど、また複数の実証実験を実施しているが、全体の予算は、特に実証実験の方は参画している各企業の負担分もあり全体事業費は不明であるが、上田

市の支出分では、令和3年度当初予算ベースで約1億9100万円。

(委員) 鳥の被害の話だが、スマートシティ化の事業として紹介があったが、ワイン用ブドウの被害は、近年、急に増えたものなのか。それとも元々、被害があり対策していたが被害が増加したので対策したのか教えてもらいたい。

(事務局) 前々から被害はあったと思う。

スマートシティ化推進計画の策定に当たり、掲載する取組について地域の課題に根差した取組でなければいけないと考え、様々な団体や企業の困り事を聞かせていただいた。

その困り事を解決するにはどの技術を活用すべきかについても、企業の皆様からソリューションやデジタルツールの提案をいただいていた。

鳥の被害についても、毎年かなりの被害を受けている現場からの話も聞いている。

(会長) 昔から鳥の果樹への被害は多く、爆音機など様々な防除機器が販売されているが、鳥が慣れてしまい効果がなくなってしまう。

近年は、温暖化の影響により山梨県でのブドウの栽培が難しくなっており、長野県に栽培が移ってきている背景もある。

これまでは個人の農家で防除できていた部分が、商業ベースで企業が経営すると面積が広くなり管理できなくなり、ワイン何千本のような形で被害が出て、目立つようになってきているのではないかと。

(委員) 今年あたりから図書館の利用が大きく変わりつつある。コロナの影響により図書館が閉館や利用制限となり、来館できない方が増え利用率が落ちてきている。

そういった背景から電子書籍導入の話が出てきている。例えば長野県では県立図書館が中心となり県内の公立図書館で電子書籍の利用検討の話題が出てきている。

電子書籍が進むと限られた図書費の中でどのように予算を割り振るかという問題も出てくる。今後、図書館がどのような役割を果たしていくかが問われるのではないかと。

図書館の書庫は非常に貴重な資料が眠っている。特に、上田市立図書館の資料の量は県下でも突出して多く、そういった資料をどのようにしたら市民に還元できるかを考えると、やっぱりデジタル化だと思う。

デジタルアーカイブの項目もあるが、今後は地元が持っている貴重な地域資料のアーカイブを進めていくことが大切である。地域のアイデンティティを確認することにもなり、地域の魅力を伝えることにもなる。地域資料が所在する場所へ行ってみようという観光にも繋がっていく。その宝を持っているのに目に見えない状態になっていることは非常に残念に思う。

図書館への来館者を増やすという点では、おそらく今までのやり方だけでは、難しいと感じる。電子書籍という新たな手段が出てきている中、図書館は何をするのかと言われた際には、眠っている宝を見えるような形にして公開していく。今は大きな転換時期になっているのではないかと。

(会長) コロナの影響により、図書館の利用方法が変化してきている。出版や利用形態も変わってきている。電子書籍は非常に便利で、商業ベースでうまくいっている部分があるので、それを図書館とうまく連携できるかが課題である。アメリカではレンタルをやっているようである。

一方で商業ベースに乗らない貴重な資料もある。私も大学の古文書のアーカイブ化に関わっているが、撮影できればその後の公開は非常に安くできる。私や大学の図書館に声掛けいただければ連携できる。

貴重な資料は保管するだけではもったいない、利用して初めて価値がある。今、私もやりたいと思っているのは、古い貴重な資料に対して SNS などと連動して、見た人が簡単に面白い発見があったら発信や流通させる仕組み。若い世代も貴重な資料に触れることができ、色々な発想に繋がってくのではないかと思う。

(事務局) 電子書籍や電子図書館については、現在、長野県において協働電子図書館の構築の検討を進めており、ワーキンググループをこれから立ち上げると聞いている。

アーカイブ化については、上田市マルチメディア情報センターにて上田城跡の古地図なども既にデジタルアーカイブ化し、ホームページ等で公開している。また、図書館に貴重な書籍が数多くあるとの御意見についても、令和元年度に立ち上げた上田市公文書館と連携し、アーカイブ化してデータ化する取組の検討も進めていきたいと考えている。

(委員) 長野県図書館協会が中心になり信州地域資料アーカイブというプラットフォームを作り、解説や翻訳を付けた資料を公開しているが、そういった例を参考にすると予算もかかり人的な問題もある。

解説や翻訳の部分は SNS の力で、市民全体で参加し連動できれば非常に面白いと感じた。これからは専門家が解説や現代語訳をつけるだけでは立ち行かなくなるのではないか。市民の力を巻き込むアーカイブがあってもいいのではないか。

(会長) 持続可能性を考えると、市民の力を巻き込んでいくことは大事である。全てを市側で行うことは難しい。どこかで手放すことも考え、最初から市が後押しするだけで、回っていく仕組みも今から積極的に考えたほうがいい。

(委員) 健康づくりチャレンジポイントのデジタル化についてだが、関連して去年は紙だったソフトクリームスタンプラリーが今年はデジタルスタンプラリーになった。

個人的に参加していたが、今年はデジタルになり達成感がなくなり 1、2 個で終わってしまった。スタンプラリーは非常に宣伝効果のある企画である。知らないお店も参加していて、足を運び食べに行った。また、リピートしたお店もあった。

現時点で紙ベースをデジタル化することは、テストケースにも感じた。スタンプラリーが紙からデジタルになったことによりどのくらい参加者に影響があったのか。

(事務局) ソフトクリームスタンプラリーについては、デジタル化した効果や、昨年度との比較などは担当部署に確認して、後日、回答する。

デジタル化すると新たな展開が期待できることが良い点だと考えている。気軽に参加でき、多くのお店に参加いただけることも効果がある。健康づくりチャレンジポイントについても、現在は、紙のポイントカードで実施し、集めたポイントを特典と交換するには健康推進課での手続きが必要で手間もかかっているので、デジタル化により改善できるのではないか。

(会長) デジタル化すると便利になるということでは地域通貨も同様。ソフトクリームのスタンプラリーも「もん」で発行すれば、それを集約し色々な使い方もできるようになればいいかと。せっかくなので「もん」を絡めていくのがいいかと思う。

健康づくりチャレンジポイントも一本化できると、集約して便利になってくのではないか。

(事務局) 「もん」と健康づくりチャレンジポイントの融合の話も無いことはない。個々の取組を繋げることにより、広がりを持たせていくことがスマートシティ化のコンセプトでもある。最初から全体最適を狙うのではなく個々の取組を進めながら、データを繋げていく。連動させることにより広がりのある取組にしていく事がコンセプトである。しかし、「もん」はお金の対価と

しての支払いが無い制度なので、どのように絡めるとうまく融合するかを検討する必要がある。

(会 長) ポイントの何パーセントを変換できるようにすれば、すり合わせがしやすくなると思う。ボランティア活動してもらいソフトクリームに変換のようなものも面白い。ただ、そうすると働いただけソフトクリーム何個になるというのも露骨になるようにも思う。

一つやり方としては現時点で集約を行い、ポイントと連動して最終的には一本化することを目指すことも掲げてもいいのではないかと。そうしないと、バラバラに進んでいきそのまま存続するイメージを与えてしまう。早い段階で集約しチケット QR も他にも使えるようにし、プリペイドでチャージしたものと同じように使えるような理想を掲げてもいいのではないかと。

私は市外在住なのでチケット QR はうらやましいと思いついて聞いていた。地域通貨も面白い。本当に意義のある取組だと感じたので、PR を重ねてもらいたい。

チケット QR は上田市で開発したものなのか。

(事務局) 坂城町に本社があり、上田市にも系列会社がある企業に協力いただき実証実験を実施している。

(会 長) チケット QR には登録の時点で生年月日しか入力していない。個人情報の問題もあるが性別、居住地、郵便番号を入れてもらえれば人がどのように移動をし、どこでお金を落としているのか、どの地域の人がどのタイミングでお金を使っているのかがわかると思うのでダイレクトに政策に生かすことができるのもいい。

場所の情報や個人の特性などの情報が入れば、それだけでエビデンスが取れるのでデータ駆動型のまちづくりが実現可能になるのではないかと。他の企業が参入してきてそういった情報を取られる前に上田市で情報をつかんでおいたほうがいい。

(事務局) 様々な属性を入れて分析に役立てていくことは必要であり、今後、検討していかなければと思っています。今は変動する運賃の中で路線を広げた場合にキャッシュレスができるかを主眼に置き実証実験を行っている。最初からそういった属性も入れて収集できればよかったが、当初はそこまでは手が回らなかった部分もある。

(委 員) チケット QR だが、私もインストールし、チャージもしている。チケット QR のシステムを搭載している車両はどのくらいあるのか。

(事務局) 令和 2 年 10 月 1 日から上田菅平線の車両に、令和 3 年 10 月 1 日からは一部の路線を除き他のバス路線に入れており、路線はほぼ網羅できている。

(委 員) 東京都内の路線バスはだいたい Suica が使える。小銭が無く困っていたら Suica が使い便利だったことを体験している。

危険性の高い河川へのライブカメラを設置とあるが、ケーブルテレビで実証実験を行っているのか。スマートフォンやタブレットからでも見ることができるのか。

(委 員) 現在、地域の第一避難所となる公民館や集会所に避難した際に、情報が得られないという声があがっており、市と協力して進めている。災害時にはテレビが見られない状況も想定し、スマートフォンなどからも視聴できるように計画は立てている。

災害時には増水が危険。高齢化や消防団員が少ないこともあり、現場に水位を確認に行くことは非常に危険であり大変である。そういった中での要望もあり、現在も当社のライブカメラでもやっているが、スマートフォンから見られるものも一部あるので、同じような形でやっていきたいと考えている。

(委員) マイナンバーカードの利用促進についてだが、通っている歯医者にマイナンバーカードを保険証として使える機械が最近導入された。転職した際に保険証が変わり、保険証がない期間に病院に行くのが不安だったこともあった。そういった不安が解消され、マイナポータルで診察履歴が確認できることでメリットを感じる。そのような動向についても計画に載せてもいいのではないか。

(事務局) まだまだ対応している医療機関は少ないが、マイナンバーカード普及促進のためにも、そのあたりの機能をアピールすることは大事だと思う。商業施設等に協力いただき取得促進キャンペーンも再開しているので、担当課とも相談し様々な場面でアピールしていきたい。

(委員) うつくしの湯の既存ボイラーの交換による低炭素社会の推進についてだが、ICT の情報技術を活用したスマートシティ化が計画の中心となっているので違和感がある。

(事務局) 計画の主な取組として、「武石地域などの中山間地域において、農業・公共交通・エネルギー・医療など、生活全般にわたって ICT の導入を進める」と掲載している。

元々掲載していた主な取組の内容を検討していく際に、細分化し作成したのが今回、お見せしたロードマップの内容である。

現在、国でも「DX」「GX」が非常に大事であるという話の中で、エネルギー部門もしっかりと考えていかなければいけない部分でもあるので掲載している。

(委員) 公共交通のキャッシュレスとチケット QR は地元企業の協力もあり、いい取組だと思う。

「もん」は市外の企業のパッケージを持ってきて利用している取組であり、参加しているお店の方からは、貯まったポイントをお店でどうするかが課題との話も聞いている。お店に来てもらうきっかけ作りとしてはいい仕組みだと思うのだが、行政がもう少し踏み込んで、貯まったポイントで何か優遇措置が得られるなどのメリットを提示しないと難しいと思う。それに比べてやはりチケット QR は、すぐにお金が振り込まれ手数料もかからない。PayPay などではできない事を地元企業はやろうとしてくれている。

上田市も予算の関係もあり、色々な事業はできないと思うので、限られたお金の中で効率的にスマートシティ化の今後の5か年計画を進めていってほしい。

(事務局) 委員の皆様にも「もん」を登録し、使っていただきたい。

現在は、お店も114スポットを登録いただいている。

(会長) このお店ではこんなことができる。こんなことに使える。という発見により行ったことの無いお店の新規開拓に繋がる。また、お店側では新規顧客に繋がる側面もあり、ボランティアやお手伝いを通じたコミュニティ作りの側面もある。目指す所を見極め、実証実験の中で検証していかなければいけない。

(オブザーバー) 地域通貨は全国にも多くの例がある。デジタル化にあたっては、他地域の既存システムを横展開することも可能であるなど、お金のかけ方は色々な考え方があると思う。そのあたりは、身の丈にあった使い方で自分の地域に合ったものを選んでいただければいいと思う。

(会長) 今後も情報提供していただくと非常にありがたいので、成功事例があったら情報提供をお願いしたい。信越総合通信局や総務省では全国の様々な事例を集めているので、その中から自分たちの地域に合ったものを選定でき、成功事例を参照できる利点があるので上田市に合ったものを情報提供いただけると思う。

(4) 「上田市スマートシティ化推進パートナー」の応募状況等について

○事務局から説明

以降、協議

(会 長) パートナー登録企業について、各企業がどの分野に精通しているか、どの分野を専門としているか分野ごとにまとめると解りやすいと思うが。

(事務局) 整理してホームページ等に掲載していきたい。

(オブザーバー) 分野ごとにグループ分けしていくと、何も無かったものが一つの塊となる。その塊の中で、当然資金が必要になるので、その際に市の負担だけでは難しいと思う。

総務省では、来年度、地域課題解決のためのスマートシティ推進事業 5.8 億円を予算要求している。今年も全国で 9 件採択されているので、何らかのグループができ、やる事が決まれば、2 分 1 の補助金が活用できるので、総務省の事業の活用も検討いただきたい。

(会 長) 具体的な話が出てきているので市側でも、企業と企業を組み合わせ、コーディネートしたら応募できるのではないかと思うので、総務省から支援していただけるのであれば補助金を利用するのがいいと思うので、検討をお願いしたい。

(事務局) 上田市でも実証事業を進めていく上で、企業の皆さんに負担いただく部分もあるので、財源を県や国から補助いただいて進めていくことが必要だと思っている。

すでに県の補助金は活用している、国の制度は活用ができてないので、紹介いただいた補助事業についても検討していきたい。今後、パートナー企業が集まる機会を設ける予定があるので、その中で総務省の事業についても紹介できればよいと思う。

(5) その他

(会 長) 全体を通して何か質問があるか。

(委 員) なし。

5 閉会 (堀内課長)